

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100279		
法人名	医療法人 宮永内科クリニック		
事業所名	グループホーム自由ヶ丘		
所在地	宮崎県宮崎市吉村町井手ノ中甲793番地1		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には、小学校・中学校、病院、消防署、大型スーパーなどがあり、社会資源等の豊富な場所に立地している。
母体の医療法人や近隣の医療機関との連携により、医療体制も充実しており、看取りの支援も行っている。
「明るく・生き生き・のびのびと暮らそう自由ヶ丘」を理念に掲げ、利用者1人1人がその人らしく、本人のペースで暮らしていく事が出来るよう、全職員が理念の意義を理解し、毎日のケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく、いきいき、のびのびと暮らそう自由ヶ丘」の理念を理解し、職員、利用者が毎日、明るく、仲良く生活している。事業所周辺は社会資源等が豊富な場所であるが事業所の敷地内で外気浴を兼ねて野菜や花の世話をしてストレス解消になっている。収穫して事業所で食べることもある。母体が医療法人であり、以前は併設している通所介護部門とレクリエーションやリハビリなどで交流ができていた。通所介護部門に1名、グループホーム内に3名の看護師がいるので医療体制が充実しており、昨年も看取りの実績があり、安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議で理念を唱える時間を設け、共有を図り、年に1回、職員全員で理念の見直しを行っている。玄関、フロアに理念を掲示し、「明るく・生き生き・のびのびと」を常に意識して、実践している。	毎年、見直しを行い、毎月、職員会議の際は全員で唱和し、共有を図っている。また玄関やフロアに理念を掲示し、職員も利用者也笑顔で明るく過ごせるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地区の総会や文化祭、防災訓練等に参加し、情報の共有を行っている。現在はコロナ禍のため、参加出来ないが、近所を通りかかされた際に、積極的に挨拶し、交流を図っている。	コロナ禍以前は地区の文化祭、納涼祭りなど行事に参加していたが今は見合わせている。また地区の自治会長や民生委員と情報交換などの共有を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を利用して、定期的にミニ認知症・健康講座を実施している。地域の方からの認知症や健康についての相談には、出来る限り専門用語を使わない様に配慮しながら、お答えさせていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染拡大防止のため、運営推進会議が対面開催できない際は、事業所から報告書を発送し、地域の意見をいただいている。いただいた意見や提案は、職員間で共有し、運営に反映させている。	提案を受け、防災訓練に地元の消防団員の参加を依頼するため自治会長に紹介してもらった。コロナ禍で開催できない時は報告書を発送して現況把握の共有に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染対策や介護保険について等、疑問点や困ったことがあれば、すぐに市の担当者に相談し連携を図っている。市が主催する研修には積極的に参加し、関係づくりを行っている。	今年、事業所で新型コロナクラスター感染が発生した際は感染対策や人員配置、人員補充等の相談をしたりして協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に外部研修に参加しており、2ヶ月に1回は職員会議にて内部研修を行っている。職員は、禁止項目の対象となる具体的な行為を理解し、日中も玄関の施錠はせずに安全確認を行っている。	内部研修では職員会議の際、身体拘束の適正化、スピーチロック、不適切なケアについて職員が考え、話し合いをしている。玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修・外部研修を通して、制度について深く学び、普段より虐待防止に努めている。家族面会時は、利用者の普段の様子や変化を必ずお伝えし、外出後も身体等に変化が無いかな観察を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、年1回の内部研修を行っており、外部研修にも定期的に参加している。家族・利用者から、制度についての相談があった際は、対応できるように学び努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、時間を十分に取って丁寧な説明を行っている。改定時には、文章を作成し、解りやすく説明する事を心掛けている。普段より、利用者・家族が不安や疑問を話せる関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、家族会は、感染防止の為、見合わせている。面会や運営推進会議等において、家族からの意見、要望をいただいている。出た意見、要望については、職員会議等で共有を図り、運営に反映させている。	コロナ禍で家族会議は開催できていないが家族からの要望でメールを開設し、メールでのやり取りができるようになったり、いつでも意見や要望について共有できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の個人面談や、月1回の職員会議にて、運営に関する意見や提案を聞く場を設けている。出た意見や提案は、管理者から事務長に速やかに報告し、運営に反映できるように努めている。	個別面談や職員の意見を聞く場を設け、昨年は職員の提案、意見で浴室の改修とパソコンの購入ができるなど運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から事務長、事務長から理事長に職員の勤務状況、実績を定期的に報告している。職員の体調や家庭事情等も考慮し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽の為、職員が施設内外の多くの研修に参加できるように、年間計画を立てている。参加した研修については、職員会議等で研修報告を行い、学びや情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域包括支援センター、多職種主催の研修等に積極的に参加し、交流・情報交換を図っている。現在は、感染予防の為、リモートを活用している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に聞いた情報は、施設に馴染めるよう職員間で共有し、新しい生活に慣れ安心・安らぎのある日常が送れるように、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍のため、これまで行っていた施設見学は難しくなっているが、談話での聞き取りや、メールにて十分な説明を行い、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、お互いから出来る限りの話を聞ける環境を作っている。必要に応じて時間も設け、思いを引き出し良いサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間の許す時は、ソファと一緒に座るなどして、話を聞いたり、新聞折りや洗濯物たたみ等の作業と一緒に手伝っていただき、できる限り寄り添うことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時に短時間ではあるが顔を見ていただいたり、電話で声を聴いていただくことで、本人も家族もお互い安心出来るように努めている。また、必要なものは可能な限り御家族へ依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり頻繁には面会・外出は出来ないが、マスクをして5分程度顔を合わせたり、馴染みの方とハガキのやり取りをしている。施設便りも発行し、馴染みのある関係が続けられるよう努めている。	コロナ禍で面会や外出は出来ないが電話で利用者の様子を詳しく伝え、ハガキのやり取りをしている。事業所便りは写真を多く載せて家族との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見ながらソファ席やテーブル席等の座る位置を考えたり、トラブルがある時は、職員も間に入るなどして、皆さんと一緒に毎日を楽しく過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設から他施設へ移られた後や亡くなられた後も、ご家族から相談を受けることもある。年賀状なども出し、離れても相談がしやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活等も考慮し、意向の把握に努めているが、本人から意向が聞き出せない場合は、御家族に伺ったり、常に本人の視点に立って考えるように努めている。	物盗られがある利用者にはいろいろ工夫して解決したり、センター方式を使い、利用者の経歴や趣味など理解し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、センター方式シートに、これまでの暮らし方・馴染みの物・好きな物等々の記入をお願いし、以前と近い暮らしが出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事が徐々に少なくなってきたが、最初だけ歯磨きを手伝う事で自分で磨けたり、注意散漫な時はそばに付き添う事で排尿ができる等、出来るきっかけをチームで見つけ共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当者がモニタリングを行い、ケア会議でチームの意見を聞いている。御家族には来所時や電話等で現状報告をし、その際に新たな要望・意見を伺って計画の見直しを行い、介護計画を作成している。	担当者がモニタリングを行い、家族からも要望や意見を聞いてケア会議で全員で見直しを行っている。利用者一人ひとりの現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やちょっとした気づきや工夫した点等も、毎日の介護記録に記入し、勤務交代時の申し送り等で皆が把握して共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在散髪等の外出や業者の施設内入室も困難な状況の為、理容業者と相談して屋外で実施する等協力をお願いしている。また受診の際、訪問介護の通院サービスを利用する事もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になり、歌や傾聴ボランティアの訪問ができない状況ではあるが、古新聞を活用してゴミ袋を届けて下さったり、地区の中学生がお正月に年賀状を書いて民生委員の方と一緒に届けて下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続の希望がある場合は、そのまま継続していただき、受診時には文書で状態報告を医療機関に行っている。主治医の変更が必要になった際は、同意を得て変更していただいている。	約半数が入居前からのかかりつけ医を利用している。受診は基本的に家族対応だが、困難な時はヘルパーや、職員が対応している。受診前後の情報提供や共有も書面等で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックや入浴や他ケア時に皮膚の状態等を含め、全身状態の把握を行っている。気づいた事はその都度、報告を行い指示を受け、記録に残すようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に本人に関する情報の提供を行うようにしている。何か困り事があれば、医療機関に出向き、相談や話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があればその都度報告を行い、事業所でできる事の説明と本人・ご家族の意向を確認するように努めている。また、職員会議等で現状やご家族の意向等を共有して、医療機関も含め今後の方針を決め、支援していくように努めている。	看取りは行っている。母体クリニックの医師を中心に、かかりつけ医が異なる場合は主治医、訪問看護ステーション、職員など、情報共有を行い、その利用者や家族に応じた安心できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これまでの利用者の急変や事故発生時の対応方法を頭に入れつつ、研修会や勉強会等で、実践と確認を行って備えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を交代で体験し、避難の方法等反省と見直しを行い再確認している。災害用に備蓄も行っている。コロナ禍の為回覧板等を利用し、地区の方々への訓練参加の呼びかけは出来ていない。	避難マニュアルや防災マップをもとに、年2回の訓練や、津波災害時の避難場所に利用者を出かけている。コロナ禍のため消防署、消防団、地域住民の参加がなく、運営推進会議等を利用して、協力体制の再構築に努めている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議等でプライバシー保護の勉強会を行い共有している。訴え等も受け止め利用者主体のケアに努め、トイレの付き添いが必要な場合も、羞恥心や自尊心を傷つけない声掛けや配慮を心掛けている。	年に1回プライバシー保護の勉強会を全職員対象に行っている。日々のケアでは利用者の情報を全員で共有して、人格を損ねないケアに努めている。トイレ誘導時の声掛けには特に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会の時などに好きな食べ物や欲しい物を選んでいただいている。また、ソファ席のお気に入りの場所に座ることが出来ず、ウロウロと落ち着かれない時等は職員が席を譲っていただくよう交渉をする事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事・レクリエーション等、その方の希望に沿うように行い、強要はせず個々のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感にも心掛け、外出の際は本人に洋服を選んでいただいている。現在、訪問カットを利用しており、本人に髪型や長さを尋ね、カットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月や四季折々季節に合わせた献立を考え、ワンパターンにならない様に工夫している。手伝いを希望される時は、食事前のテーブル拭きや下膳・茶碗洗い等、職員の見守りの中していただいている。	全調理を職員がホームで行っている。職員の食事と同じメニューだが、コロナ禍のため、同席せず時間をずらして食べている。おやつや行事食など食事が楽しみになるように取り組んでいる。敷地内の畑の野菜を使うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はカロリー計算し、水分量・食事量の把握も行っている。噛む力が弱くなってきたり、むせが見られる時は、状態に応じて食事形態の工夫やトロミ材の使用、本人が使いやすい器の工夫等も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、口腔ケアを行っている。スポンジブラシや口腔テッシュ等、その方に応じた口腔ケア道具も使用している。出来る限り、本人に行っていただき、不十分な際は、声掛け・介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々に合わせた声掛け・誘導を行っている。失禁の少ない日中は布パンツを、尿量の多い夜間はおむつ等を使用するなど、利用者の能力に合わせた支援を行っている。	利用者一人ひとりにあった自立支援に努めている。オムツの種類やパットの検討を行い、利用者の現状に合った適切なものを使う努力をしている。その結果以前よりパッド数が少なくなった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を活用し、便秘状態を把握している。自然排便を促すため、腹部マッサージ等も行っている。下剤については、主治医と相談して過度な服用がないようにコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	回数を増やしてほしい希望のある場合は、可能な限り希望に沿うように努め、入浴を拒まれる時は、職員が代わって対応したり、時間をずらす、曜日を変更するなど行い、気分良く入浴できるように配慮している。	おおよそ週2回であるが、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応している。脱衣所や浴室のヒートショック対応にも留意している。また、リフト浴などもあり利用者は全員浴槽に浸かることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠している方には、短時間のベット臥床をすすめている。季節に応じた寝具やエアコンの調整、毎日のベットメイキングも行い、気持ちよく安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診時は必ず医療機関に状態報告を行っている。薬の変更があった際は、その都度薬効の周知も図り、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から昔の話を聞いたり、日々の生活の中でヒントを得て試してみたりしている。洗濯物たたみを自分の仕事として力を発揮されている方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出や職員以外との交流が難しい中、近場のドライブに出かけたり、日光浴や施設周辺の散歩等も行っている。	日常的に敷地内での外気浴を行い、花や畑の世話などで気分転換やストレス発散を行っている。感染対策に留意しながら、季節の行事に合わせた短時間のドライブ等も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安な方は、御家族様と相談して少ない額を所持していただいている。コロナ禍で買い物が難しいので、職員に買って来て欲しい物を伝えていただき購入する等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴で毎日電話をしたいと希望される方には、何回でも気のすむまで受話器を持って話をさせていただいている。話の内容は後日職員が御家族にお伝えしている。年賀状や手紙も書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の花壇、玄関には季節の花を絶やさないように飾っている。また、季節にあった壁紙や行事の写真も利用者で作成し、掲示して眺められるようにしている。食事、お茶の時は静かな曲を流して、ゆったりとした雰囲気を作っている。	職員は室温、湿度の適正値を共有して、毎日3回定時に測定記録している。利用者の動線には物を置かず、ソファの配置や加湿器、テレビ等のコードにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席で過ごすことが多いが、みんなの中で窮屈に感じる時は、その場を離れてテーブル席で本や新聞を見たり、居室でベットに横になるなどして過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンス、椅子などを居室で使用している。馴染みの置物や御家族の写真なども飾っている。人形・ぬいぐるみも側におき、話しかける事で落ち着いて過ごされている。	居室には家族の写真や、おしゃべりのできる人形など、利用者が以前から使っていた馴染みの品が持ち込まれている。職員は本人や家族と話し合い利用者が安心して穏やかに過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示や、口腔ケアセットは自分の物がわかるように配置している。車椅子を使用する場合も個人の身体機能の状況に合わせ、場所や距離を考え必要なときだけ使用している。		